

情 報

更生の花は
慈愛の土に咲き



文京区保護司会

主唱 / 法務省
MINISTRY OF JUSTICE

小さい頃から、私と世界を隔ててきた“生きづらさ”。
世界は私の全てを拒絶した。

独りでもがいて、自分も周りも傷つけた私が
保護観察になったのは、高校をやめたとき。

言葉にならない思いは、あふれて、止められない。
その人は、私の“生きづらさ”に触れることなく
でも包み込むように言った。

— 大丈夫。世界は広くて、温かくて、
私もいるんだから、きっと大丈夫。

“生きづらさ”の向こうにあった世界が、
少しだけ近く見えた。
私を拒んでいた世界は、私が拒んでいた世界。
その人の言葉が、世界と私をつないでくれた。

だから今。今度は、君に伝えてる。

— 大丈夫。世界は広くて、明るくて、
私もいるんだから、きっと大丈夫。

#生きづらさを
生きていく。

犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ
第72回 社会を明るくする運動

7月は“社会を明るくする運動”強調月間・
再犯防止啓発月間です。

社明 しゅめい 検索



INDEX

ごあいさつ	2
学校紹介 文京区立茗台中学校	4
地域活動紹介 少年野球チーム レッドサンズ	6
第72回 社会を明るくする運動	7
三者懇談会	8

新任保護司紹介	8
令和4年度文京区保護司会定時総会	9
会務報告	10
更女だより	11
ホッと一息 あとがき	12

令和四年度を迎えて

文京区保護司会会長

亀田 一良



五月の大型連休が終わった後の五月十二日に令和四年度の文京区保護司会定時総会を文京区民センターで行いました。

多くの保護司の方が集合して総会を開催することができたのは三年ぶりです。久しぶりにお会いすることが出来た人もありました。そして議題である令和三年度の事業報告、会計報告、監査報告、令和四年度の事業計画案、予算案を審議して全て承認していただき新年度をスタートすることが出来ました。現在はまん延防止等特別措置も解除されていますが、東京都の新規感染者は高止まりで推移していますので、各活動は今までと同様にその時の状況を確認しながら進めていきたいと思っています。

また総会の時にもお話ししましたが文京区保護司会は昭和二十八年五月九日に発足して来年度七十周年を迎えます。今現在ではどの様な形で周年行事が行えるか分かりませんが、準備を進めていかなければと思っています。

さて先日古い書類を整理していたら、その中から平成九年二月発行の文京区保護司会名鑑が出てきました。中を見ると懐かしい諸先輩方が若々しい姿で映っていて、その最後の方に私

がのつていました。人数が多かったので数えてみると現在の文京区の定員と同じ八十二名でした。現在は六十三名ですのでこの四半世紀の間に二十名近く減ってしまっていて、改めて現状を認識させられました。地道に適任者を探していく努力を続けていかなければいけません。最後に今年度もコロナ禍の中、皆さま方の協力のもと文京区保護司会を進めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

より社会に開かれた 更生保護へ

東京保護観察所長

生駒 貴弘



文京区保護司会の皆様には、平素から更生保護活動に多大なる御尽力をいただきまして、心から感謝申し上げます。

四月一日付けで東京保護観察所長に着任いたしました。重責であります。微力ながら私なりに精一杯取り組んでまいります。

さて、新型コロナウイルスの感染状況はまだまだ予断を許さないとありますが、去る五月十二日には、三年ぶりとなる文京区保護司会定時総会が開催され、私も主任官とともに出席をさせていただきます。多くの皆様が一堂に会す

こと自体が当たり前ではない状況の中で、まさに「有り難い」ひとときであり、あらためてコロナ禍を乗り越え、文京区保護司会の新たな再出発の契機となつてほしいとの思いを強く抱いたところです。

さて、昨今は、多様な支援の担い手が更生保護活動に参画していただけるようになってきました。一つは、犯罪や非行の分野において、高齢化や障害を有するなど福祉的支援を必要とする人たちが増加し、その支援体制が充実してきたことが挙げられます。また一つには、刑務所出所者等の就労支援に、多くの雇用主の方々や、経済界の御支援をいただけるようになったことが挙げられます。これらの積み重ねもあり、社会全体の中で更生保護活動の重要性が改めて再認識されてきているものと考えています。保護司適任者の確保が課題となっておりますが、更生保護に関心を持っていただいた方々に、どのようにして活動や組織について理解していただき、スムーズに活動に参加していただくことが重要な課題と考えています。保護司専用ホームページ「H@（はあと）」の積極的な活用なども含めて、特に若い世代の新たな担い手の方々により活動に参加しやすい環境整備にも努めてまいります。

皆様のより一層の御支援と御鞭撻を何卒よろしくお願いいたします。



皆様の活動に支えられて

文京区福祉部長

竹越 淳



日頃より、保護司会の皆様方におかれましては更生保護事業にご尽力いただきまして、心よりお礼申し上げます。

さて、昨年度は、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が開始され、本区でも円滑なワクチン接種の推進に取り組んでまいりました。接種開始当初は、全国的にも課題となったワクチンロス対策において、保護司会の皆様方にもご協力いただきましたこと、あらためて感謝申し上げます。

また、例年7月に実施しております、「社会を明るくする運動」ですが、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、東京ドーム周辺での広報啓発活動及び文京矯正展は残念ながら中止せざるをえませんでした。しかしその一方で、「社会を明るくする大会」については、感染対策をしっかりと講じたうえで、事前録画しておいた中学生の意見発表を当日放映するほか、北京オリンピック女子バレー日本代表の櫻井様をお招きして講演会を開催いたしました。また、12月3日には文京シビックセンター及びその周辺において啓発活動を実施いたしました。その他にも、文京区保護司会が幹事を務

めた「第2ブロック保護司組織運営連絡協議会」では、オンラインを活用した会議を開催し、大変有意義な情報交換を行うことができました。新型コロナウイルス感染症は、いまだに社会経済活動に大きな影響を及ぼしております。このような中にあっても、保護司会の皆様方は、感染対策にご配慮いただき、各種事業が円滑に実施できるよう、常に前を向いて精力的に活動されてまいりました。

今年度も、地域における青少年健全育成施策の中心的な役割を担う皆様方と、子どもたちが健やかに成長することのできる地域環境をとものに創り上げてまいりたいと存じます。

今後とも皆様方のお一層のご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

新年度のご挨拶

東京保護観察所 保護観察官

嶋田 華乃



平素より更生保護事業にご尽力いただき、心から感謝申し上げます。本年4月から、文京区を担当させていただきますこととなりました嶋田と申します。

私のことをお話しさせていただきます。

私は、保護観察官に任官して2年目の新米保護観察官です。元々は、検察庁で検察事務官として勤務していましたが、保護観察所の業務内

容や保護観察の現場を知りたいと思い、組織間人事交流の制度を活用し、保護観察所に向向となりました。昨年度は更生保護施設の担当官でしたので、地区担当官は初めての経験となります。

文京区の担当官に配属されたことは、他の地区に比べケースは少ないものの、ある意味、濃いケースばかりで処遇が難しそうだということとです。昨年度担当していた更生保護施設は、成人男性のみを受け入れる施設だったため、少年や女性のケースを扱ったことがありません。知識も経験もない私はきつとこれから洗礼を受けるのかと戦々恐々としております。このように、先生方の不安を煽るようなことを申し上げておりますが、私には「救世主」がおりますので、どうかご安心ください。その救世主とは何を隠そう、私の前任の古川観察官です。処遇の相談等を常日頃より行っておりますので、先生方への打ち返しもスムーズにできるかと思っております。私の目標は、前任者の処遇に対するマインドを引き継ぎつつ、不良措置を執ることのない1年にすることです。そのためには先生方との連携が必要不可欠ですので、些細なことでもご相談いただければ、フットワークだけは軽いため、どこにでも飛んでいきます。お気軽にご連絡ください。

人事交流期間は2年ですから、本年度で保護観察所勤務は終了します。ご縁があり、文京区の更生保護の輪に関わらせていただくことに感謝し、次のバトンにつなげられるよう、尽力して参ります。

みんなのワクワクを実現する学校 〜文・武・道（知・徳・体）協育〜

文京区立茗台中学校長 杉浦芳則

【茗台中学校の歴史】

茗 台中学校は、昭和三十五年四月一日、東京都文京区立第十二中学校として設置されました。しかし、

その四月の入学式には、「茗荷谷に臨む台地」にあることにちなみ、校名を「茗台」と改称され、茗台中学校の歴史が始まりました。文京区内の公立中学校としては、十二番目に開校された学校であったため、「十二」という数と竹早町の「竹」という字を組み合わせて、図案化して出来上がった本校の校章は、誇り高きシンボルとして輝いています。そして、開校当時の教育目標は、「剛健の人・真剣の人・前進の人」とありました。こうと決めたら、どんな困難にも立ち向かい、「びくともしない剛健の気風、何事にもまじめに取り組む真剣な姿、そして、進歩し成長し続ける前進の人」を育成していく茗台中学校は、この教育

目標「剛健・真剣・前進」を縮めて、「ニケン、一シン」を合言葉に、生徒・教職員・保護者が「チーム茗台」となって取り組んだそうです。

また、開校以来「知の茗台」として学習面はもちろん、文化・スポーツにおいても、様々な成果をあげ、区立中学校の中心的な役割を担ってきたともいわれています。まさに、「文武両道」を目標とし、誰もが全力で取り組んできたのではないのでしょうか。このような茗台中学校の歴史は、開校以来63年目を迎え、生徒・保護者・地域とともに引き継いでまいりました。

【現在の茗台中学校】

○特徴ある校舎

文部科学省が推進する「学校施設のインテリジェント化」によって設計された校舎は、全館冷暖房を完備しているため、教室、特別教室はもちろん、アリーナ（体育館）、格技室、廊下に至るまですべての空間が、過ごしやすい環境となっています。生徒は年間を通して快適で落ち着いた状態で、学習や部活動に集



中することができると、衣替えはありません。区内でも数少ないテニスコート4面を有するゆとりのあるグラウンドやアリーナ、格技室、和室などの多様な施設があり、最上階の8階には、屋根が開閉する全天候対応プールなど、様々な学習活動に対応しています。

○確かな学力・学習意欲の向上

茗台中学校は、特別教室を含むすべての教室に電子黒板が配置され、授業ではタブレットやパソコンや電子教科書などのICT機器を活用した授業が行われています。また、コロナ禍において、学校での授業に参加できない生徒のために、授業をオンラインで毎日配信しています。

日々の取組では、朝の授業が始まる前の時間を利用して、「朝読書」を行っています。個々の知識を広げ、言葉を通して想像力を高め、思考能力を高めています。また、帰りの学活の前に「終学習」と称して、担任のもとで短時間ですがドリル学習を行っています。さらに自主学習として「水曜学習室」「定期

「夏期補充教室」や「英検対策」等を行い、生徒の学力向上に努めています。

○豊かな人間性の育成

コロナ禍の終わりが見えない中、様々な行事の縮小を余儀なくされ、生徒同士がコミュニケーションをとる機会が少なくなっています。しかし、茗台中学校では様々な行事を工夫しながら、生徒が自ら考え、お互いに協力しながら行事に取り組めるよう、4月に行う「学年はじめレク大会」を皮切りに、「運動会」「学習発表会」などを行っています。生徒は様々な制限がある中において、自分たちのワクワクする行事づくりを、生徒同士、教職員とのコミュニケーションを図りながら、熱心に取り組んでいます。



やり取りをしています。生徒の不安や悩みをとらえる大切な取組となっています。

○開かれた学校づくり

茗台中学校は開かれた学校づくりとして、学校公開はもちろん、様々な行事や道徳授業地区公開講座等においても幅広く公開しています。また、毎月発行している学校だより、学年通信や学級だよりなどにおいて、学校における生徒の活動を各家庭、地域の方々にお届けしています。さらに、ホームページやツイッターを活用し、最新の生徒の活動も報告しています。

○特別支援教育の充実

令和3年度より、茗台中学校に自閉症・情緒障害特別支援学級が開級いたしました。生徒一人一人の障害の状況や発達段階等を的確に把握し、きめ細かく指導を行っています。自立活動の時間を各教科等の指導と密接な関係を持たせ、将来の社会自立を目指し、効果的な学習を進めています。

【地域と共に】

茗台中学校は、「みんなのワクワクを実現する学校」を目標としています。何事にも生

徒たちが中心となって取り組み、互いに協力し信頼しあえる学校、

そしてお互いを尊重しながらコミュニケーションを図り、笑顔で挨拶、声掛けができる学校を目指しています。



地域と連携を密にし、協働し合いながら、生徒たちが自分たちの成長を実感できる学校づくりを進めています。令和4年度も、予想だにしない出来事が多く発生し、人々が様々なことに対し、一歩前へ踏み出すにも、躊躇してしまうような日々が続いています。しかし、私たちはこれまで培ってきた知識や技能を生かし、しっかりと考え、そして判断しながら前に進み、様々なことを学んでいかなければなりません。

令和3年度よりスタートしている「新学習指導要領」に基づき、「社会に開かれた教育課程」が期待されています。われらの茗台中学校は、先輩方が築き上げた歴史と伝統を引き継ぎ、「知の茗台」「文武両道の茗台」として「地域の茗台」として、さらに大きな発展を生徒、教職員、そして地域の方々と共に創り上げていきたいと考えています。

第38回東京23区少年軟式野球大会 優勝

レッドサンズ

代表 橋爪武男
 総監督 佐藤公治



去

る2021年11月23日、成澤文京区長にも応援に駆けつけていただき大田スタジアムで行われた「第

38回東京23区少年軟式野球大会」決勝戦において江戸川区代表チームを10-3で制して優勝し、東京23区の頂点に立つことができました。

これもひとえに地元の皆様様の温かい応援、活動に対する深いご理解の結果と感謝いたします。

本大会は晩秋の開催ということもあり、レッドサンズにとって中学受験を目指す選手が数名休部するなど、例年戦力が厳しい大会となっていました。



今年のチームは低学年時代なかなか勝つことができず、大会でコールド負けを喫するところがあるようなチームでした。

それでも仲間を思いやる気持ちは歴代のチームに比べ格段に強く、個人もチームもメキメキ力をつけ夏の全国大会東京都予選を3位で突破し、新潟県で行われた『高円宮賜杯第41回全日本学童軟式野球大会 マクドナルド・トーナメント』に出場するまでに成長しました。

本大会においても夏まで控えた選手、下級生が休部した選手の不在をしっかりと補い、チーム



力を落とすことなく大会を迎えられたことが悲願の大会初優勝に繋がったのだと思います。

都心ではキャッチボールもままならない厳しい環境下での活動となりますがレッドサンズは、知恵を絞ってチーム設立の趣旨、『健全なる心身の鍛錬と体力の向上、協調の精神、並びに野球技術の指導』の精神を基に活動を行ってまいりますので、これからも応援のほどよろしくお願いいたします。

第72回 社会を明るくする運動

犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ

社会を明るくする運動は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動です。文京区では「文京区社会を明るくする運動推進委員会」を組織し、例年地域に根ざした運動を実施しています。

犯罪からの立ち直りには本人の努力はもとより、周りの人の応援や地域の中に「居場所」があることが大きな後押しになります。立ち直ろうとする人を受け入れ、支える方法は様々です。何が出来るかを一緒に考え、出来ることから始めてみましょう。

文京区社会を明るくする運動推進委員会（構成 30 団体）

- ・文京区
 - ・文京区保護司会
 - ・文京区更生保護女性会
 - ・文京区青少年健全育成会 (9 地区)
 - ・文京区立小学校長会
 - ・文京区立中学校長会
 - ・文京区立小学校 PTA 連合会
 - ・文京区立中学校 PTA 連合会
 - ・文京区町会連合会
 - ・文京区民生・児童委員協議会
 - ・文京区社会福祉協議会
 - ・文京区内警察署少年補導連絡会 (4 地区)
 - ・防犯協会 (4 地区)
 - ・文京区青少年委員会
 - ・文京区商店街連合会
 - ・東京青年会議所文京区委員会
- (順不同)

東京ドーム周辺広報啓発活動

日 時：令和4年7月2日（土）午後3時45分

場 所：東京ドーム周辺等

* セレモニーはラクーアガーデンステージ

内 容：啓発用絆創膏・ティッシュ等を配布し、運動の趣旨を呼びかける。

文京区社会を明るくする大会

日 時：令和4年7月10日（日）

午後1時30分開会

場 所：文京区民センター 2A 会議室

内 容：(1) 青少年の意見発表
(第一中・第三中・第六中)

(2) 講演

講師：NPO 法人キッズドア

松見幸太郎氏

東京ドーム周辺広報啓発活動、文京区社会を明るくする大会については、新型コロナウイルスの感染状況を注視し、状況に応じて中止・延期、または規模の縮小を検討します。

規模を縮小して行われた昨年12月の文京シビックセンター周辺広報啓発活動



春日町交差点付近での活動



文京区立小学校 PTA 連合会の皆さん

三者懇談会に関して

更生保護法人 東京実華道場 ステップ押上

保護司 金井 輝夫



文

京区三者懇談会は毎年3月に文京区保護司会、文京区更生保護女性会、東京実華道場（ステップ竜岡・押上）と連携して開催しています。本来であれば更生保護施設ス

トップ竜岡または押上において施設見学も合わせて開催しておりますが、コロナ禍の状況により今年は文京区民センターの会場にて行なわれました。

開会に先立ち、保護司会亀田会長、更生保護女性会時田会長、東京実華道場森山理事長の挨拶を頂き懇談会が始まりました。

東京実華道場からは、3つのテーマを発表しました。その内容は、1つ目に更生保護施設の概要及び現況について、2つ目にステップ竜岡での事例紹介、3つ目にステップ押上での取組として無料低額宿泊所の運営状況についての説明です。

1つ目の更生保護施設の概要及び現況では、参考資料を用いてどのような対象者が更生保護施設を必要とし、更生保護施設とはどんな役割を担っ

ているかという点について、入所者の特性に応じた専門的な処遇や、日頃から保護司会及び更生保護女性会の皆様方の協力を頂いて運営していること等の話題を提供しました。

2つ目の事例紹介は、高齢の対象者について実際に現場で行なわれている事例に沿って社会で安心して暮らしていくためには、在所中のみならず退所後も多機関との連携が必要だという内容でした。施設での生活を通じて各機関や病院等への同行、金銭管理、服薬の確認等の生活援助を行ない、本人が安心して社会で暮らしていくための準備について現場からの声をお伝えしました。

3つ目は平成29年度よりステップ押上の2階に併設されている第2種社会福祉事業である無料低額宿泊所「ステップなりひら」の運営状況について説明しました。そこでは福祉事務所の依頼により生活保護受給者が利用することの出来る施設であり、地元地域の社会資源としても活用されている様子を紹介しました。

おわりに、出席された保護司の方々と活発な意見が交わされ、実際に施設の見学希望や職員の処遇状況、エピソードが知りたい等の多くの意見を頂きました。次回こそは、当該施設で開催されることを願って閉会となりました。

新任保護司紹介



駒込班
まきたに よしあき
牧谷 嘉明

仕事柄ITには知見があり、元々小学校のPTA会長をやっております、その関係

で小学校のIT環境に関するアドバイスをしています。世間ではDX（デジタルトランスフォーメーション）を進めようという掛け声がかかり様々なサービスが利用しやすい環境が整ってきています。

しかし自分達のやりたいことがなか、それに対してどのようなサービスを利用するのがいいのか、それを導入することでのような効果が得られるのかなどをきちんと検討し導入し利用を進めていくのは知見のない人が行うのはかなり至難の業です。

結果として誰にも使われなくなったお金を無駄にしてしまうことが往々にして起こります。

この時代にFAXや電話、SMSなどで連絡を普通にとっていたり、メールもキャリアメールを使っていたり驚きました。皆さんのIT環境を把握し、勉強会などを開きながら理解を深めて頂きたいと思っています。行く末は紙媒体もなくなると考えています。よろしくお願ひします。



令和四年度
文京区保護司会
定時総会

日時：令和4年5月12日（木）

16：00～17：30

場所：文京区民センター3階A室

出席者：57名（保護司46名 来賓11名）

来賓：観察所2名 区長 区議会議長

区役所3名 警察署2名

更生保護女性会1名 桐友会1名

令

和2年、3年度の総会は書面
表決となり、三年ぶりの総会
が小雨の中開催されました。

久し振りの顔合わせで、規模を多少縮小し感染症対策を執りながら和やかな総会となりました。



保護司在籍63名中46名の出席があり、開会の言葉の後、保護司信条を全員で唱和いたしました。東京保護観察所からは、本年度より着任された生駒貴弘所長と嶋田華乃主任官の出席をいただいたほか、関係団体からのご来賓と区役所からは、福祉部福祉政策課の職員が出席され係員の方を紹介していただきました。総会は滞りなく進行しすべての議事が満場一致

で承認となりました。また春の叙勲及び褒章の表彰者の紹介があり、最後に記念撮影で終了しました。
ウィズコロナの中で、できることを模索しながら、社会を明るくする運動や研修等、保護司活動に向けて新しいスタートを切ることができました。

（加藤恵子）

福祉部福祉政策課 地域福祉係の皆さん



後列左より：久保井 知世さん 恩田 泰子さん
前列左より：松澤 知之さん 福澤 正人さん 安藤 浩子さん
玉井 厚子さん（ご欠席）



駒込班 水木 優香

私が初めて保護司の先生方にお会いしたのは15年前。PTA会長として出席した、保護司会との交流会

の席でした。「今は忙しいだろうから無理して引き受けなくて良いよ。いつか時が来たらよろしくね。」と、お声掛けいただいたことを鮮明に覚えています。

これまで私は、学校と地域でインクルーシブ教育環境を整える活動をしてきました。発達障害の特性を持つ児童の支援、医療的配慮が必要な児童の支援、地域の居場所となる子ども食堂の開催、青少年育成事業等、子どもに囲まれた生活を送って参りました。

そして数年前、発達障害の特性を持つ少年が意図せず犯罪に巻き込まれ、加害者側になってしまった事例を知りました。人生の基礎を作る学童期の子どもに関わる者の責任として、保護司の活動に携わろうと思うひとつの要因となりました。

誰もが生きやすい社会となるよう、諸先輩方に知恵を分けていただきながら保護司を務めて参ります。どうぞよろしくお願いたします。

会務報告

■令和4年度定時総会

令和4年5月12日(木) 16:00～17:30
於：文京区民センター3A
出席者：46名 来賓11名

令和3年度事業報告、令和4年度事業計画案

令和3年度決算報告、監査報告、令和4年度予算案、承認
来賓挨拶、紹介、春の叙勲表彰報告
(伊藤記)

■正副会長会議

令和4年3月2日(水) 18:00～19:30

於：文京区民センター4A
出席者：7名

年度未事業の確認・三者懇談会について
(伊藤記)

令和4年4月2日(土) 18:30～19:50

於：文京区民センター4A
出席者：7名

理事役員会、定時総会について検討
(伊藤記)

令和4年5月2日(月) 18:30～19:40

於：文京区民センター4A
出席者：7名

定時総会、ICT化に向けての協議会について検討
(伊藤記)

■理事役員会議

令和4年3月24日(木) 18:30～19:50

於：礪川地域活動センター
出席者：25名

各部各班の後期活動報告及び決算報告
令和4年度活動計画予算案

令和4年度各班世話人について
観察所、区福祉部の人事発表 (伊藤記)

令和4年4月14日(木) 18:30～20:30

於：礪川地域活動センター
出席者：20名 福祉政策課1名

令和3年度決算報告、予算審議、承認
令和4年度各部各班の事業計画、予算案発表

令和4年度会員会費の見直しについて
現行通り (伊藤記)

■会計監査会議

令和4年4月6日(水) 10:30～12:00

於：文京区民センター4A
出席者：4名

令和3年度会計決算内容の監査会
令和4年度予算案について下案作成
(伊藤記)

■三者懇談会議

令和4年3月11日(金) 14:00～15:45

於：文京区民センター3A
出席者：24名 更女10名 更生保護施設職員3名

ステップ押上・ステップ竜岡からの情報提供、現況、事例紹介 (今井記)

■ICT化に向けての協議会

令和4年5月7日(土) 18:30～20:00

於：文京区民センター4B
出席者：11名

保護司会員のPC利用についての状況
PC連絡を普及していくためのステップを検討 (伊藤記)

■総務部会議

令和4年4月27日(水) 18:30～19:45

於：文京区民センター4A
出席者：13名

定時総会打合せ会議 配布資料、当日の役割について検討 (伊藤記)

■ネットワーク部会議

令和4年3月3日(木) 13:00～14:20

於：実華道場ステップ竜岡
出席者：1名 更女：時田 実華道場：森山、倉住

三者懇談会打合せ
3月11日(金) 区民センター3Aで14時からと決定

当日の進行について検討 (今井記)

■広報部会議

令和4年3月25日(金) 14:00～15:00

於：シビックセンターシルバー会議室A
出席者：10名 更女：6名

情報575号の編集会議
情報574号の発送作業
広報部会計内容の確認 (山田記)

■保護司が参加した行事

東京都保護司代表者協議会

令和4年3月17日(木) 13:30～15:20
於：東京保護観察所集団処遇室

令和4年度東京保護観察所の体制、活動方針等 (亀田記)

東京都保護司会連合会 理事会

令和4年3月17日(木) 15:30～16:15
於：東京保護観察所集団処遇室

令和4年度事業計画、予算について (亀田記)

■その他外部団体への参加

文京槐の会理事会

令和4年3月18日(金) 10:00～11:45
於：文京区障害者会館A・B会議室

令和4年度事業計画、予算について (亀田記)

叙勲・褒章

令和4年春の叙勲

瑞宝双光章 西村 夏夫氏

令和4年春の褒章

藍綬褒章 高北 幸子氏

退任保護司

令和4年5月24日付

富坂班 加藤 省三氏



令和四年度 文京区更生保護女性会総会を終えて

日時…令和四年五月二十三日（月曜日）
午後二時三十分～
会場…文京シビックセンター
スカイホール
出席者…来賓六名
会員・賛助会員六十二名
福祉政策課職員四名

コ ロナ禍にあり、三年ぶりに
文京区更生保護女性会総会
が開催されました。

開会の辞、綱領斉唱、物故者への
黙祷に続きご来賓の皆様方より
ご祝辞を賜りました。

温かな労いのお言葉や、今、人
と人との繋がりが大切なとき、気
持ちを寄せ合えるような活動をと、
これからに向けての励ましのお言
葉もいただきました。

議事も、令和三年度事業・決算・
監査報告があり、令和四年度の事
業・予算案が読み上げられ、出席
者全員の拍手を以てスムーズに終了
いたしました。

続いて、時田会長の挨拶では、
皆様方へのご協力に感謝の言葉と、
コロナ禍で制限された中での活動
にはなりますが、少しずつ前に進
んで行けるよう「互いに助け合い
楽しく活動していきたい」と抱負
を述べられました。

感染者の高止まりと言われ不安
もありましたが、対策をしっかりと
行った上での総会も閉会の辞とと
もに終えることが出来、ほっといた
しました。

会場では、就労支援の二環として
古代穀の販売も行われ、皆様方
のご協力により完売することが出来
ました。また、会員のご厚意によ
り折り紙の作品のお土産もあり、
和やかな雰囲気の中で久しぶりの
再会のひとときとなりました。

最後になりましたが、福祉政策
課の皆様方には大変お世話になり
感謝申し上げます。

泉田きよ子





本富士班 高野満知子

ことしの冬は例年になく寒く、春が来るのが遅かったような気がします。コロナも一向に収束する気配もなく、出掛けることに神経質になる日々が相変わらず続いています。

冬の寒さと巣籠り生活の中、何か出来ることはないかと思い、編み物が好きなこともあって、家族全員に毛糸の帽子を編むことにしました。娘たち家族と夫にと合計九個…

それぞれの顔を思い浮かべながら、毛糸を選んでいると段々楽しくなってきました。こんな時は冬の寒さも悪くはないかと。

しかし年令と共に寂しくなっていく根気と集中力、最後まで編み

上がるかと不安になりながらも、好きな音楽と紅茶を傍において、一つ出来上がっては「ホッと一息！」そして被ったところを想像しては大満足…

少々押し付け感の強い毛糸の帽子になってしまいましたが、気を遣ったのか一応、喜んでくれたようでした。

フワフワの毛糸に触れている時は私にとって、いつときコロナのストレスも忘れ、心安らぐ癒しの時かも知れません。

駒込班 米岡春美

この原稿依頼を受けた時、最近のニュースを見てる中で一息つける時はあるのかな？と考えてしまいました。そんな時楽しみにしていた行事を半分あきらめてた孫二人にニュースが。

高二の孫(男の子)の北海道へ

の四泊五日の修学旅行が決定。寒い時に北海道!!と思ったのですがおいしいものが食べられるから、との事。沖縄への選択肢もあったのですが。

そして中三の孫(これも男の子)も修学旅行などの行事が中止になったものの、日帰りで遊園地へ行く事に。

二つの学校の先生方のご苦労や対策への検討も大変だったと思います。子供達も感謝の気持ちを持って歩んで行ってくれたらと願ってやみません。

ロシア、ウクライナ問題やコロナ禍での嬉しいニュースでした。



あとがき

毎号地域活動紹介のコーナーは楽しみにしているのですが、今回は子ども達の喜びに沸く笑顔に心が洗われました。おめでとうございませう。よく「保護司って知ってますか?」館ひろしや有村架純のドラマにもなりましたが、「…」という話をすると、誰にも興味と共感を持って聞いてもらえます。それもあって、同じPTA役員仲間には北区の保護司さんがいるので、その先輩をプレゼンターにして、「保護司の世界」と称したZOOM講演会をPTAの親時の会でおやじ企画しています。楽しみます。個人的には、以前から勉強していた統合心理学の技法も生かしたコーチングを勉強・実践。それもあって、もともと自分を磨かねばと、日々のマインドフルネスと感謝日記:よりも、毎晩の奥さんへの肩もみが、欠かせない自己成長への道となっています。

塩川浩司

〈広報部〉 森山 堀内 山田 大橋 時田
米岡 浅川 根尾 岡崎 西川
塩川 市原

情報 第五七五号

編集 文京区保護司会 広報部

発行人 文京区保護司会会長 亀田一良

事務局 文京区春日一六二一

文京区役所福祉政策課内

印刷所 企画・宣伝協同組合

エコフィールド事業本部